

## R4.2/12・13 全国競技運営責任者会議（リモート会議）より

### ① 施設用器具に関して報告があったもの

#### ○ 300mH設置の注意事項

- ・ 競技場での設置の義務付けはない。設置後は、検定が必要。
- ・ 標識タイルでない費用負担の少ない表示方法で良い。
- ・ マーキングがない競技場では、競技会時に設置位置をマーキングが必要。  
マーキング方法は検定員、技術役員が講習済み。（福井県だと前田さん）  
（県営、鯖江、敦賀はマーキング有り 大野は現時点ではないが、今年度末に設置の可能性有り）
- ・ ハードルの高さは、男子914mm(U20)、838mm(U18)、女子762mm

#### 【参考】150m、145mのスタート位置

150mスタート … 300mHのハードル4台目と同じ

145mスタート … 400mHのハードル7台目と同じ

#### ○ 障害物(3000m障害)の対応 (TR23.5)

- ・ 障害物の高さにU18 男子(838m(±3mm))の規格が2020ルールに新たに定められた。
- ・ 現状はあくまでも国際大会対応で、全ての競技場に設置されているわけではなく、義務付けではない。
- ・ 2020年からU18の高さにも対応した製品が納入されだしている。

#### ○ 障害物競走等、グループスタートにおける代用縁石の置き方

- ・ 競技場保有の代用縁石の数が不足している場合は「1本おき」としていたが、競技規則に従い、全線に置く必要がある。代用縁石の補充整備を推進中。福井県は今年のインターハイで対応済み。

#### ○ 粘土板の粘土の角度変更(TR29.5)

- ・ 国内では2022.4.1から粘土を45度から90度となる。（国際では2021.11.1～）
- ・ 粘土板は、新ルール適応後も現在使用しているタイプ（45度成型対応）が粘土を90度に成型できるため、従来のものを使用する。
- ・ 粘土を90度に成型するローラーは製品がある。  
→日本陸連は、お好み焼き等で使用するフライ返しを90度に曲げて使用する例を挙げていた。

#### ○ 棒高跳ボックスの設置について

- ・ 2004年の競技規則改正で、競技者がけがをしないようにボックスの上部の隅を丸めたものになった。
- ・ 改正された当時は角を現地で丸めたものも可としたが、年数も経ち、検定において対応した検定品のボックスとするようにしている。競技会では規格にあったものを利用すること。

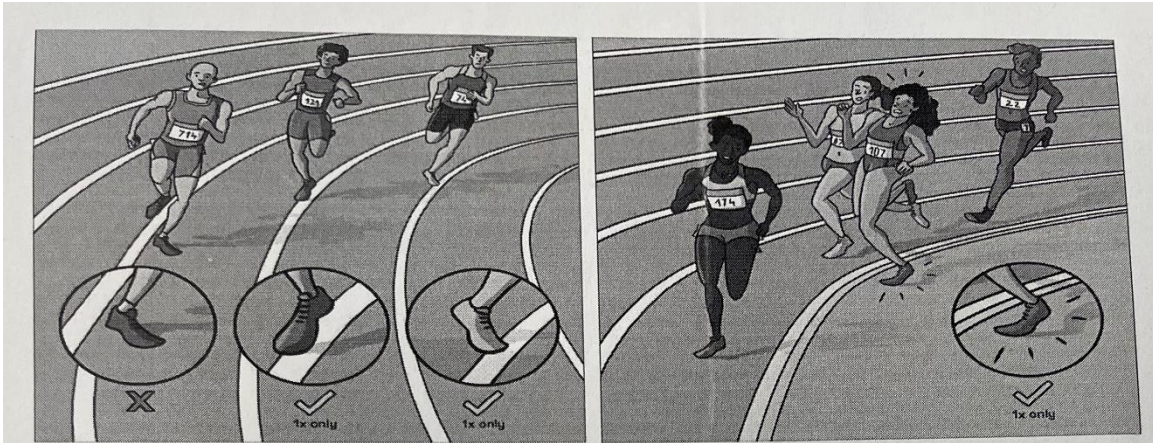
## ② 2022年度競技規則修改のポイント

- 審判名について【変更・追加記載】(CR28)
  - (従来) 計測員 (科学)
  - (変更) 科学計測員
  - (追加) 関係技術者がいない場合は、科学計測員が機器の設置を行い、正しい位置に設置され、正しく作動することを審判長が確認する。

- 内側の線を踏んだり、越えてしまった際の対応 (TR17.4.3 と TR17.4.4 が追加)

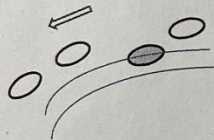
TR17.4.3	TR17.4.4
<p><u>レーン割当のある (セパレート) 曲走路で</u></p> <p>・内側の線に触れた(踏んだ)</p> <p style="padding-left: 20px;">1回(1歩)だけ：失格とならない</p> <p style="padding-left: 20px;">2回(2歩)以上：失格(TR17.3.1)</p> <p style="padding-left: 20px;">※内側の線を踏んだのは1回だけだが、他の選手(チーム)を妨害したら失格(TR17.2.2)</p> <p>&lt;個人&gt;</p> <p>同一レースで別の場所で1回ずつ2回(計2回)</p> <p>同一種目の異なるラウンドで1回ずつ2回(計2回)</p> <p>&lt;リレー&gt;</p> <p>同一選手が同一レースで別の場所で1回ずつ2回(計2回)</p> <p>別々の選手が同一レースで別の場所で1回ずつ2回(計2回)</p> <p>同一種目の異なるラウンドで1回ずつ2回(計2回)</p> <p>・内側の線を踏みながら隣のレーンに入った場合、「線に触れている」と考え、</p> <p style="padding-left: 20px;">1回では失格とならない</p> <p>・内側の線を越えて完全に隣のレーンに入ったら、</p> <p style="padding-left: 20px;">1回であっても失格</p>	<p><u>レーン割当のない (オープン) 曲走路で</u></p> <p>・縁石(縁石下の白線)に触れた</p> <p>・縁石(縁石下の白線)の中に入った</p> <p style="padding-left: 20px;">1回(1歩)だけ：失格とならない</p> <p style="padding-left: 20px;">2回(2歩)以上：失格(TR17.3.2)</p> <p style="padding-left: 20px;">※内側に入ったのは1回だけだが、他の選手(チーム)を妨害したら失格(TR17.2.2)</p> <p>&lt;個人&gt;</p> <p>同一レースで別の場所で1回ずつ2回(計2回)</p> <p>同一種目の異なるラウンドで1回ずつ2回(計2回)</p> <p>&lt;リレー&gt;</p> <p>同一選手が同一レースで別の場所で1回ずつ2回(計2回)</p> <p>別々の選手が同一レースで別の場所で1回ずつ2回(計2回)</p> <p>同一種目の異なるラウンドで1回ずつ2回(計2回)</p>
<p>・レーン侵害を行ったら、記録と次のラウンドのスタートリストには「レーン侵害・1回目」の情報として、「L」を記載      L：レーン侵害(TR17.4.3、TR17.4.4)   〔CR25.4 に略号追加〕</p>	
<p>・レーン侵害の繰越しルール(1回目は失格としないが、次に侵害したら失格)は、</p> <p>同一種目の異なるラウンドへの繰越し：あり   例1) 200m 予選で1回、200m 準決で再度侵害→失格</p> <p>別種目への繰越し                               ：なし   例2) 200m 予選で1回、400m 予選で1回→失格とはならない</p> <p>※例1の場合、<u>200m 予選の記録は認められるが、準決の記録は認められないこととなる</u>(TR31.14)</p>	
<p>・混成競技は同一種目で複数回、違反があれば失格となるが、他の種目への繰越しはない</p>	
<p>・1つのレースでレーンの割当てとレーンの割当てのない部分がある場合(例：800m、1600mR)は、走っている位置で適用される規則が異なる</p> <p style="padding-left: 20px;">レーンの割当てのある場所：TR17.4.3 を適用      レーンの割当てのない場所：TR17.4.4 を適用</p>	

例) 内側の線を踏んだり、越えてしまった際の対応



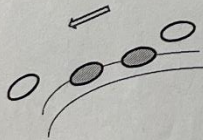
<TR17.4.3>

① 内側の線を1歩(1回)だけ踏んだ



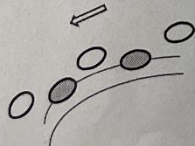
×1 ⇒ 失格としない(同一種目の次ラウンドへ繰越し)

② 内側の線を2歩以上続けて(2回以上続けて)踏んだ



×2 ⇒ 失格 (TR17.3.1)

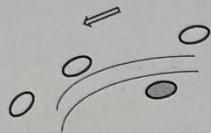
③ 内側の線を1歩(1回)踏んだ後、別の場所で再び内側の線を踏んだ



×2 ⇒ 失格 (TR17.3.1)

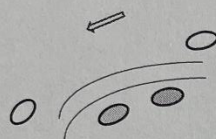
<TR17.4.4>

① 縁石の内側に1歩(1回)だけ踏み込んだ



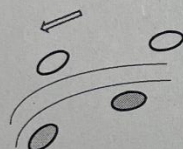
×1 ⇒ 失格としない

② 縁石の内側に2歩(2回)以上踏み込んだ



×2 ⇒ 失格 (TR17.3.2)

③ 縁石の内側に1歩(1回)踏み込んだ後、別の場所で再び縁石の内側に踏み込んだ



×2 ⇒ 失格 (TR17.3.2)

○競技用靴について

主な変更点	改正前	改正後
靴底の厚さの定義	中敷きと靴底を含んだ厚さ	靴底の厚さ <u>購入時のインナーソールは厚さに含む</u> <u>WA事前承認の追加インソールは厚さに含まない</u>
カスタム 既存靴のカスタム化	可 競技者の足の形に合わせる事前申請の必要性は規定なし	可 <u>ただし、WAの事前申請・承認が必要</u> <u>安全/医療上の理由が必要と明確化</u>
対象競技会	WA競技規則に準じた競技会 ただし、線引きが不明確	<u>WA競技規則に準じており、ワールドラン</u> <u>キングポイントが獲得できる大会</u> 2023年1月よりワールドランキング競技会制度が導入され対象大会が明確化
靴底の厚さ	現行規定2024年10月31日まで	<u>2024年11月1日よりT&amp;F種目シューズが全</u> <u>て20mmに統一</u>

○ 競技用靴・靴底厚さ表① 【2024年10月31日まで有効】

種類	最大厚さ	要件・備考
フィールド (三段跳除く)	20mm	全投てき種目と高さを競う跳躍種目および三段跳を除く長さを競う跳躍種目に適用。 全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
トラック種目 (800m未満の種目、 ハードル種目を含む)	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック種目 (800m以上の種目、 障害物競走を含む)	25mm	リレーにおいては各走者が走る距離に応じて適用する。競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは道路競技と同じとする。
クロスカントリー	25mmのスパイクシューズか 40mmのノンスパイクシューズ	競技者はスパイクシューズもしくはノンスパイクシューズを履くことができる。
道路競技 (競走、競歩)	40mm	
マウンテンレース トレイルレース	制限なし	

○ 競技用靴・靴底厚さ表② 【2024年11月1日から有効】

種類	最大厚さ	要件・備考
トラック種目 ハードル種目 障害物競走	20mmスパイクシューズまたは ノンスパイクシューズ	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。競技場内で行う競歩競技の厚さは、道路競技と同じとする。
フィールド種目	20mmスパイクシューズまたは ノンスパイクシューズ	全跳躍種目で、本規定10.3および10.4に記載のとおり、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
道路競技 (競走・競歩)	40mm	
クロスカントリー	20mmスパイクシューズか 40mmノンスパイクシューズ	競技者はスパイクシューズもしくはノンスパイクシューズを履くことができる。
マウンテンレース トレイルレース	制限なし	

**重要告知：本規定5.3に従い、2024年11月1日以降、靴底の厚さが上記の表に記載されている最大の厚さを超える既存靴は承認されなくなり、対象競技会では着用できなくなる。**

○ 長さを競うフィールド競技の4回目以降の試技について【追加記載】(TR25.6)

(追加) 長さを競うフィールド競技で8名を超える競技者が出場している場合、全員が3回の試技終了後、上位記録の8名のみが4回目以降の試技を行うことができる。この要件として、最初の3回の少なくとも1回で、正しい跳躍または正しい投てきで結果が記録される必要がある。最初の3回の試技で有効な結果が記録された競技者が8名未満であっても、4回目以降の試技を行うことができるのは、最初の3回の試技で1回でも有効な結果が記録された競技者のみである。

例) 参加者が10名の競技時に、最初の3回で有効な記録を残した選手が7名しかいなかった場合、4回目以降に進出できる選手は記録のある7名のみになる。

※参加者が最初から8名以下の時は、全員に6回の試技が許される。

○ 高さを競う競技のジャンプオフについて【追加記載】(TR26.9)

(追加) ジャンプオフを行うことになったら、審判員はその準備を行う。競技開始後、ジャンプオフを行わないとの決定ができるのは、荒天等でこれ以上競技を行うことが危険との判断を審判長がした場合のみであり、審判員がジャンプオフを行う対象となる競技者に対して、「全員がジャンプオフを行わないことを選択すれば、全員が同順位で1位になる」といったことを示唆してはならない。競技者が自発的に申し出てきた場合のみ、ジャンプオフを中止または終了することになる。

例) 昨年の東京五輪男子走高跳でジャンプオフを中止し、両者優勝という事例があったが、これは選手からの申し出があったためである。

○ 走幅跳・三段跳における踏切の判定機器等について【追加記載】(TR29.3 TR29.5)

※国内では2022.4.1からビデオカメラによる踏切の判定が導入される(国際では2021.11.1～)

(追加) 踏切地点にビデオカメラやその他の技術を用いた機器を設置しない場合は、粘土板を置いての判定を基本とする。粘土板を使用しない場合は、粘土板を設置するように施工されている部分はラバー等で窪みを埋める。

～日本陸連から～

ビデオカメラ等を使用する場合	：	粘土板は使用しない
ビデオカメラ等を使用しない場合	：	粘土板の使用が基本
粘土板・ビデオカメラ等を共に使用する場合	：	<u>判定に混乱を喫するため同時使用は避けるべき</u>
粘土板・ビデオカメラ等を使用しない場合	：	無効試技判定が正確にできるなら、現在使用しているゴム板(45度タイプ)を使用可

○ 走幅跳・三段跳における無効試技の定義について【変更】(TR30.1.1)

(従来) 競技者が踏切を行う際、跳躍しないで走り抜ける中で、あるいは跳躍の動きの中で、身体のどこかが踏切線の先の地面(粘土板を含む)に触れた時

(変更) 競技者が踏切る際、跳躍しないで走り抜ける中で、あるいは跳躍の動きの中で、踏切足または踏切足の靴のどこかが、踏切板から離れる前に、または地面から離れる前に、踏切線の垂直面より前に出た時。

〔国内〕粘土板を使用して判定を行う際は、粘土板に痕跡が残った時は無効試技とする。

○ 記録申請の早期化【変更】(CR37.2 CR37.4 CR37.8)

(従来) 30日以内 (変更) できるだけ速やかに(競技終了後、1週間程度をめぐ)

○ 世界記録が公認される種目について【追加・削除】(CR32)

- (追加) 男女道路競技 50km : 記録の初回認定は 2022.1.1
- 男女競歩(トラック 35,000m と道路 35km) : 記録の初回認定は 2023.1.1
- (削除) 男子競歩(トラック 30,000m) : 35,000m の記録初回認定後

○ 単独種目の走高跳・棒高跳の連続試技の適用時間について【変更】(TR25.17)

従 来				変 更			
単独種目				単独種目			
残競技者数	走高跳	棒高跳	その他	残競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上*	1分	1分	1分	4人以上*	1分	1分	1分
2~3人	1分30秒	2分	1分	2~3人	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	-	1人	3分	5分	-
連続試技**	2分	3分	2分	連続試技**	2分	3分	2分
* 4人以上または各競技者の最初の試技				<b>* 削除</b>			
** 走高跳・棒高跳では、残っている競技者が2名以上で、同一の高さの時のみ適用する。				<b>** 削除</b>			
混成競技				混成競技			
残競技者数	走高跳	棒高跳	その他	残競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上*	1分	1分	1分	4人以上*	1分	1分	1分
2~3人	1分30秒	2分	1分	2~3人	1分30秒	2分	1分
1人または 連続試技**	2分	3分	2分	<u>1人</u>	<u>2分</u>	<u>3分</u>	<u>-</u>
* 4人以上または各競技者の最初の試技				* 4人以上または各競技者の最初の試技			
** 残っている競技者に関係なく適用し、走高跳・棒高跳では高さが変わった場合にも適用する。				** <u>単独種目・混成競技ともに</u> 、残っている競技者数に関係なく適用し、走高跳・棒高跳では高さが変わった場合にも適用する。			

例) 単独種目 棒高跳の競技試技時間適用

	4m80	4m90	5m00	5m10	5m20
(人数)	(5)	(5)	(4)	(4)	(3)
佐藤	× × ○	× × ×			
田中	○	× ○	○	× × ×	
小林	○	○	× ○	× × ○	○
木村	-	○	-	○	× × ○
広瀬	-	-	-	-	○

連続試技  
変更前 2分

連続試技  
3分

連続試技  
変更後 3分

連続試技  
3分